

2005年9月より済生会熊本病院臨床工学部より週2日の派遣で業務を行っており、常勤の臨床工学技士は不在である。

1. ME機器中央管理業務

ME中央管理室の業務では、機器の貸出し、保守点検整備および修理を主たる業務として活動している。

中央管理しているME機器は、人工呼吸器6台、NPPV4台（レンタル）、輸液ポンプ23台、シリンジポンプ8台、経管栄養ポンプ3台、小型シリンジポンプ6台、低圧持続吸引器6台、除細動器4台、AED2台、体外式ペースメーカー2台、その他に麻酔器、電気メス、医用テレメータ、ベッドサイドモニター、自動血圧計、パルスオキシメーター、ジェットネブライザー等である。

2011年11月に医療機器管理ソフトを導入し、上記の医療機器以外に放射線・検査・リハビリ・薬局に配置されている機器についても機器の情報を登録している。

機器をバーコードでPC管理し、貸出・返却の手間を簡素化できたと同時に、使用履歴の管理が可能となった。

病棟の機器、ME室に在庫している機器の状況や添付文書、取扱説明書も各病棟より閲覧が可能となった。

図1. 人工呼吸器の稼働状況 平均稼働率23.1%（前年度15.8%）

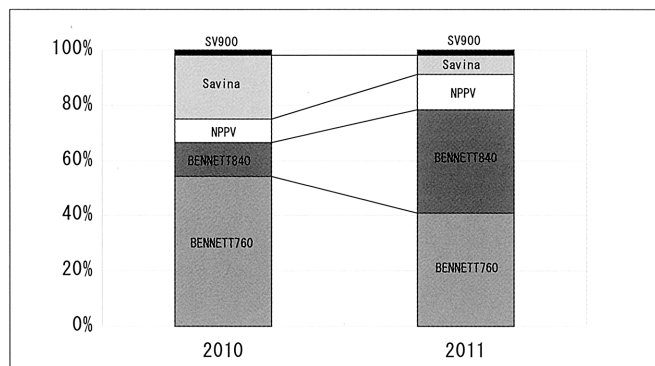


図2. 人工呼吸器使用割合比較

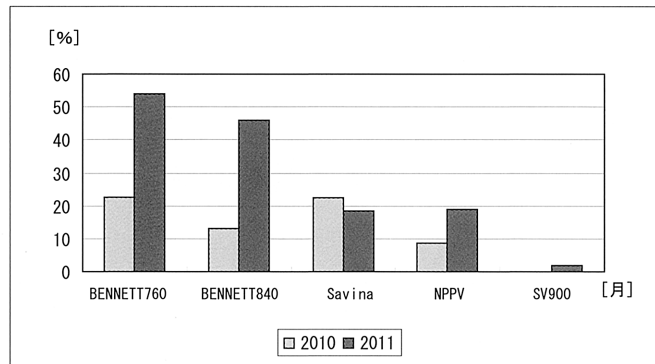


図3. 人工呼吸器機種別稼働率

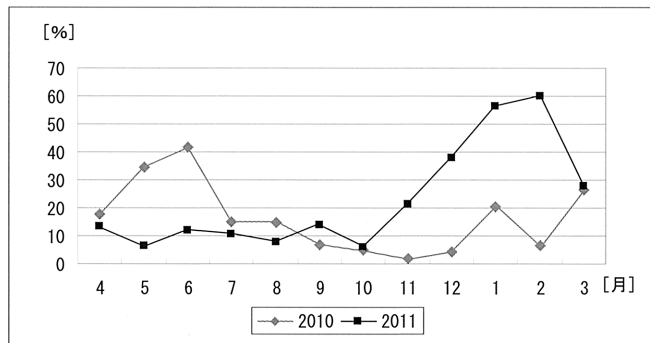


図1において、NPPVは9月末より4台にて算出。

図2より BENNETT760と BENNETT840の稼働率が飛躍的に上昇した。

2. 病棟機器の修理整備業務

機器の修理・調整は、中央管理機器だけでなく病棟管理の物品にも行っている。

2011年度の修理依頼状況は自動血圧計が最も多く、次いで吸引器であった。

吸引器の仕様変更に伴い各病棟での新旧品の混在を避けるためフロア別に機種を統一している。

酸素流量計は、故障が少なく高精度なダイヤル式に更新の途中ではあるが、故障件数は減少傾向となっている。

病棟モニターの電解強度試験を実施し快適な電波状況であることを確認済みである。

3. 人工呼吸器業務

人工呼吸器が必要な緊急時は、機器を選定しベッドサイド配置及び呼吸器設定の補助を行っている。

定期的な回路・フィルタ交換や要望に合わせ蛇管構成の変更等、需要に応じて NPPV のレンタル台数の検討を随時行っている。

4. ペースメーカー業務

対外式ペースメーカーの電極挿入時にジェネレーター操作及びサポートを行っている。

5. 手術室業務

麻酔器の定期点検を行っている。

2011年度は、麻酔器“ファビウス”のオーバーホールを実施した。

2012年度に麻酔器“エスティバ”のオーバーホール予定である。

脳外科の MEP 業務や外科の内視鏡操作も対応可能である。

2011年度の手術助手依頼数は、0件であった。（前年度2件）

6. ME教育・指導

ME機器の原理、構造、適切な使用法の勉強会を行っている。

起こりうるトラブルとその対処、安全対策等に関して随時情報提供を行っている。

トラブルの報告があった際は、迅速に対応・原因追求して返答し、その情報を ME 中央管理室に蓄積して、メーカーとの協議を行っている。